積極的取り組みをアピール

Photo REPORT
フォトリポート

名古屋の熱い夏

23回目を数える「下水道技術の祭典」下水道展が名古屋開府400年を記念し，7月28日にポートメッセなごやで開幕しました。厳しい経済情勢の下，また地方開催でありながら277社・団体（900小間）が出展。4日間にわたり，多彩な分野，業種の最新技術・機器がアピールされました。

本機構ではこれまでの研究成果をパネルやリーフレットで来場者に積極的にPRしました。

新規4課題の共同研究案を審議

8月2日，本機構会議室で今年度第1回目の技術委員会（委員長＝松井三郎京都大学名誉教授）を開催。新規課題4件を含む共同研究案件について審議したほか，3件の研究課題について，石川理事長が松井委員長に諮問しました。

技術マニュアル活用講習会開く

本機構では，地方公共団体やコンサルタント等の実務担当技術者の皆様が新技術を採用する際の客観的判断資料としてもらうため，民間企業との共同研究の成果「技術マニュアル」を発刊しています。新技術の普及・発展に向け，10月7，8に東京で，10月15日に大阪で「技術マニュアル活用講習会」をそれぞれ実施。多くの方が民間企業との共同研究成果の発表を聴講されました。

特別講演に高い関心

東京・渋谷区のアイビーホールで10月25日，事業報告会を開きました。報告会は本機構がどのような取り組みをしているのかを会員企業らに広く紹介する貴重な機会です。津野洋京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻教授が「下水汚泥の資源化の現状と課題」の演題で特別講演を展開。津野教授は，環境保全と資源循環の考え方をはじめ，汚泥中有機物からのエネルギー回収，下水道からのリン資源の回収などについて最新の知見を披瀝しました（概要を本誌で掲載）。

シールド内を見学

新技術現場研修会を11月2日に開催しました。今回は，東京都下水道局基幹施設再構築事務所の協力を受け墨田区・八広幹線工事の現場を視察しました。同工事は，墨田区の一部の雨水を収容する八広幹線および雨水排除能力の増強をはかる管きょを施工するものです。工事は幹線内径3500㍉の坑内から内径1800㍉の分岐シールドを発進させるもので，シールドマシンによる支障鋼材の切削撤去をはじめ，坑内発進による分岐シールド，パルテム・フローリング工法による二次覆工など施工上の多数の特色を持っています。発進立坑基地から26㍍下の立坑内へと降りた参加者一行は，最新技術に興味津々の様子でした。